



◇ 基本の使い方

単一視覚障害の点字使用児童の算数で使用。

点字用紙の中央を切り抜き、裏面からレーザー用紙を貼り付ける。点字用紙のふちは、強度を保つため3cm以上残すようにしたが、作図の妨げにならない程度の面積を確保する。

レーザーライターにセットしやすく、用紙がしわになりにくいため、全盲児にも扱いやすい。また、使用后すぐにファイルに綴じられるため、ノート管理もしやすくなる。

◇ 指導のねらい

算数の授業中にレーザーライターをセットすることに時間がかかって、肝心の作図等の学習の時間が少なくなることを防ぐ。点字用紙を台紙にしてあるため、そのままファイルに綴じられ、自分で復習するときにも見やすい。用紙が丸まって、後から見られなくなることも防げる。

◇ 指導の評価

全盲・弱視混合クラスの算数で使用した。レーザーライターに用紙をセットする時間が大幅に短縮でき、弱視時に遅れてしまうことがなかった。

用紙がピンと貼られており、線を引いたり、長さを計ってピンを差したりする活動もずれにくくなった。リング式のファイルを使用してノート管理するようにしていたが、後から見直すこともでき、復習することができた。

特に、全盲児が複数の集団で学習するときには、弱視の児童より時間がかかることがあるが、時間を無駄にせず、教員が他の児童を指導していても、書いたものの管理も自分で行うことができた。